

Title	デファクトスタンダードの獲得は競争優位をもたらすか
Sub Title	
Author	石丸淳久(Ishimaru, Atsuhisa) 岡田正大
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1661号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1661

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	岡田 研究会	学籍番号	80028085	氏名	石丸淳久
<p>(論文題名)</p> <p>デファクトスタンダードの獲得は競争優位をもたらすか</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>「自社の規格が標準になれば市場で一人勝ちともいわれる圧倒的地位を築くことができる」(新宅純次郎)、「デファクトスタンダードの確立は企業の競争優位の源泉となるが持続性のあるものではなく、その優位性はマーケットの拡大期に限定される」(柴田高)等、デファクトスタンダードの競争優位への効果 - すなわち経済的な価値については一定の評価がない。従来の研究の中心はデファクトスタンダードのもたらす競争優位性を大前提としつつ、いかにデファクトスタンダードを獲得するかと言うものが大勢である。それはいわゆるプレマーケティング競争でも同様であり、いかに上市前にデファクトをとる要件を揃えるかに議論が集中されてきた。</p> <p>しかし、これまでの規格戦略の中にはデファクトスタンダードを確立しながらも、規格策定企業が収益を確保できているとは言いがたいものもある。たとえば、ソニーの 3.5 インチフロッピーディスク規格や IBM の PC-AT 規格において各々の企業は圧倒的なシェアを上げている訳でもなければ、ライセンス料やキーパーツの販売を確保しているものでもない。</p> <p>果たしてデファクトスタンダードの確立そのものが当該デファクト規格を策定した企業の価値増大に貢献するのか? 本論文は、従来大前提とされてきた「デファクトスタンダードの獲得=競争優位」と言う命題に正面から取り組もうと言うものである。そしてこの論文の目的は、従来是とされてきたスタンダードの獲得と言う命題に一石を投じ、かつ、企業が規格策定にあたってコントロールすべき変数とその手法を示唆することである。</p>					